

艦載機 J-15 が使用するカタパルトの方式

漢和防務評論 20180306(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

上海で建造中の 2 番目の国産空母 (003) の艦載機は如何なる発進方式が採用されるか？
多くの人々が興味をもっていると思われますが、今日の漢和の記事は大胆に電磁カタパルト方式であると推測しました。
現在興城基地で試験しているのは主に電磁カタパルト方式である、と。

中国遼寧省興城基地での J-15 艦載機の訓練を見ると、カタパルトを使用した J-15 の試験飛行が開始されたようだ。これは 2017 年 11 月のことである。最新の衛星写真を見ると、J-15T 型が 1 機カタパルトにセットされていた。この J-15 は、まさに試験飛行中であった可能性が極めて高い。これは詳細に研究する必要がある。

基地には、2 つのカタパルトが建造されており、KDR は、以前、1 つは電磁カタパルト、1 つは蒸気カタパルトとし、同時に両方のシステムを実験している、と推測していた。現在は、相当高精細な衛星写真を入手しているので、それが確かめられた。2 つのカタパルトの外形、構造は異なっている。電磁カタパルトの方がやや長く、200M を超える。しかし蒸気カタパルトのガイド軌道長さは約 200M である。最も大きな構造面の違いは、電磁カタパルトの方は 1 セットの直流モーターを有することである。しかもこの J-15T がセットされていたのは電磁カタパルトの方であった。このことから、現在 J-15 が試験しているのは、電磁カタパルトが主である、と KDR は判断している。

ある説によると、003 空母 (上海空母) は、蒸気カタパルトをスキップし、直接電磁カタパルトに進化したという。北朝鮮のミサイル工業の発展速度を低く評価していたことから、我々は深刻な教訓を得た。中国や北朝鮮のような国家は、莫大な動員エネルギーがある。同時に基礎科学が発達し、人材が豊富である。

003 空母に直接電磁カタパルトを装置する可能性はますます高まってきた。そうであるならば、なぜ最初に蒸気カタパルトを建造しようとしたのか？その理由として、当初の予想をはるかに超える速度で電磁カタパルトの開発が進化したから、と KDR は考えている。



遼寧省興城基地の電磁カタパルト訓練施設？（Google Earth）

以上